

平成15年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[資源生物学]

1. 水産資源調査における標識放流法について以下の設問に答えよ。

【14点】

- (1) 代表的な標識法を4つあげよ。
- (2) 標識放流尾数を X 、標識後の捕獲尾数を n 、標識魚の再捕尾数を x としたとき、ピーターセン法によって資源量(資源尾数) N を推定せよ。またこの式が成立する条件についても言及せよ。
- (3) 標識放流法の目的、意義について簡潔に論ぜよ。

2. 生物資源に関する以下の文の空欄 から に適当な語を入れよ。

【12点】

- (1) 魚の年齢を知ることは、生物資源の解析に不可欠である。年齢推定は、飼育法、標識放流法、 法などがある。 法に利用されるものとして、鱗、 があげられる。
- (2) 水産資源量を知るために漁獲量は有効な指標となる。多くの場合、漁獲量を規格化するために、漁獲量を で除した が用いられる。 は漁船隻数、漁労日数、使用釣針数、ひき網回数などから求められる。
- (3) 主に南極海に生息する は、動物プランクトンに分類され、魚類やイカ、あるいは巨大ほ乳類である の餌となる。

3 . 以下の語句を簡単に説明せよ。

【 2 4 点】

(1) 加入年齢 (漁業としての)

(2) ネクトン

(3) リゲニン

(4) 貝毒

(5) 湧昇

(6) 特定海洋生物資源

論点[資源生物学]

- 1 . 水産資源を管理する上で重要な標識放流法についての基礎的な理解を問う。
- 2 . 水産資源に関する幅広い基礎知識を問う。
- 3 . いずれも、資源生物学の理解を確かめる用語で、資源生物学への日常の関心と取組を問う。